

リバースコートを下地として塗る場合

リバースコートを内装下地として塗る場合は、クロスなど内装仕上げ前の石膏ボードに塗布します。
＜乾燥時間の目安＞夏季：2～3時間 冬季：半日～1日程度

施工手順

① ボード張り付け後に塗布する場合



パテ処理をします。
パテ練りにはP.28の練り水をご使用ください。



パテ処理部にリバースシーラーを塗布した後、薄塗りで複数回塗布してください。



入隅や窓周りなど、ローラーが届かない箇所は先に刷毛で塗ってください。

② 張り付け前（現場搬入前）に塗布する場合*



広い作業スペースが確保できる場合は事前に塗布してから現場搬入すると効率的です。



作業スペースが無い場合や限られる場合でも、6～8畳程度の広さがあれば現場での塗布作業が可能です。



ボード間にコマを入れて立て掛け、側面から扇風機で風をあてることで早く乾燥させることができます。

※張り付け後、パテ処理をした部分などは上記①同様に施工してください。

塗布面積 1セット約80m²

この塗布面積は石膏ボードを寝かせた状態で1回塗りした場合です。
現場状況によりボード張り付け後に塗布する場合は、1回塗りでは同量の塗布はできませんので、規定量になるまで複数回の塗布が必要です。



ムラができないよう一定の方向に向けて塗布します。ボードを寝かせた状態で塗布すると作業性が良いです。

注意事項

P.11の注意事項も合わせてご確認ください。

- ・リバースコートを塗布することで吸い込みが良くなるため、リバースコートを塗布した下地にクロスを張る際は基準量よりも約20%程度多くクロス糊を塗布してください。
和紙など、クロスの種類によっては更に塗布量を増やす必要がある場合もあります（P.26参照）。
- ・塗布後、不陸調整が必要な場合は削った所をきれいに掃除し、リバースシーラーを塗布してください。

※上記作業を行わずにクロスを張ると剥離の原因になりますので、必ず行ってください。

下地素材別のリバースコートの塗り方

下地の種類によっては下処理が必要になります。また、現場状況に応じて養生は必ず行ってください。

① クロス下地（クロスを剥がしてから塗る場合）

クロスを剥がした後、下地に凹凸がある場合はパテ等で下地調整をしてから塗布してください。
古いクロスが剥がす際は表面のビニール層の部分を剥がします。深く剥がし過ぎて下地を傷めないようご注意ください。

※剥がれにくい場合は無理に剥がさずそのまま塗布してください（P.14参照）。

剥がしてから塗ることが望ましいですが、あまりにも年数が経過している場合などは無理に剥がすと壁面が汚くなってしまいますので、状況によってご判断ください。



剥がした部分と裏紙が残った部分の段差を平滑にします。
パテベラで段差の部分のみパテを入れ、段差を埋めるように薄くのばします。余分なパテはパテベラで取り除きます。



パテ乾燥後、紙ヤスリをあてて平滑な面を作ります。作業後、まだ段差がある場合は平滑な面ができるまでパテ塗り→ヤスリがけを繰り返してください。



平滑な面ができたならパテの粉を取り除きます。濡らして固く絞ったタオル等でよく拭き取ってください。パテの粉が残っていると接着不良を招くおそれがあります。



リバースシーラーを1回塗布してよく乾燥させます。



ローラーまたは刷毛でリバースコートを塗布します。
リバースコート仕上げ（P.10参照）にする場合は、下地が見えなくなるまで複数回塗布してください。